

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成26年7月10日 (2014.7.10)

【公開番号】特開2014-96820(P2014-96820A)
 【公開日】平成26年5月22日 (2014.5.22)
 【年通号数】公開・登録公報2014-027
 【出願番号】特願2013-264683(P2013-264683)
 【国際特許分類】

H 0 4 W 52/02 (2009.01)

【 F I 】

H 0 4 W 52/02 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月27日 (2014.5.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ネットワークを介した通信に関連するスリープ期間を判定するように構成されたトランシーバであって、

前記ネットワーク上でデータを受信するように構成されたトランシーバロジックと、データ単位に関係する 2 つ以上のデータフィールドの内少なくとも 1 つを解析することと、前記データ単位は、前記 2 つ以上のデータフィールドと、少なくとも複数のデータフレームとを含む現行フレームであり、前記複数のデータフレームは、複数のサービスを備え、ここにおいて、前記 2 つ以上のデータフィールドは、複数のデータフレームの前の前記現行フレームの初めに位置されている、

前記解析に基づきスリープ期間を判定することと、ここにおいて、前記解析されたデータフィールドが、少なくとも 1 つの後続フレームにおいて前記トランシーバにデータが送信されないことを示すとき、前記トランシーバは、前記現行フレームの後の少なくとも 1 つのフレームの間に、スリープの状態に入り、ここにおいて、前記少なくとも 1 つのデータフィールドは、ユーザが選択したマルチメディアサービスの物理層の識別情報を備える

、
を行うように構成された処理ロジックと、を備えるトランシーバ。

【請求項 2】

前記データフィールドは、スーパーフレーム内のオーバーヘッド情報シンボル (O I S) チャンネルに位置されている、請求項 1 に記載のトランシーバ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0091

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0091】

詳細な説明の節は、主に特許請求の範囲の解釈に役立てるべきものである。要旨及び要約の節は、発明者によって企図された本発明の 1 つ以上の、ただし全てではない、例示的な実施形態を述べるものであって、よって特許請求の範囲を制限することを意図するものではない。

以下に本願発明の当初の特許請求の範囲に記載された発明を付記する。

〔１〕 通信デバイスの中でスリープ期間を判定する方法であって、データ単位に関する２つ以上のデータフィールドの内少なくとも１つを解析することと、前記解析に基づきデバイススリープ期間を判定することと、を備える方法。

〔２〕 後続データ単位にてデータが入手可能であるか否かを、前記解析に基づき判定することをさらに備える、〔１〕に記載の方法。

〔３〕 前記スリープ期間は連続するスリープ期間である、〔２〕に記載の方法。

〔４〕 前記スリープ期間は覚醒期間によって分け隔てられる、〔３〕に記載の方法。

〔５〕 前記通信は直交周波数分割多重化の原理に基づく、〔１〕に記載の方法。

〔６〕 前記解析はネットワークの物理層の中で行われる、〔１〕に記載の方法。

〔７〕 ネットワークを介して通信するよう構成された通信デバイスの中でスリープ期間を判定する方法であって、データ単位の存在に関するデータフィールドを解析することと、後続データ単位にてデータが入手可能であるか否かを、前記解析に基づき判定することと、を備える方法。

〔８〕 ネットワークを介して通信するよう構成された、通信デバイスの中でスリープ期間を判定する装置であって、データ単位に関する２つ以上のデータフィールドの内少なくとも１つを解析する手段と、前記解析に基づきデバイススリープ期間を判定する手段と、を備える装置。

〔９〕 後続データ単位にてデータが入手可能であるか否かを、前記解析に基づき判定する手段をさらに備える、〔８〕に記載の装置。

〔１０〕 前記スリープ期間は連続するスリープ期間である、〔９〕に記載の装置。

〔１１〕 前記スリープ期間は覚醒期間によって分け隔てられる、〔１０〕に記載の方法。

〔１２〕 前記通信は直交周波数分割多重化の原理に基づく、〔８〕に記載の方法。

〔１３〕 前記解析はネットワークの物理層の中で行われる、〔８〕に記載の方法。

〔１４〕 ネットワークを介した通信に関連するスリープ期間を判定するよう構成されたトランシーバであって、データ単位に関する２つ以上のデータフィールドの内少なくとも１つを解析するよう構成されたプロセッサと、前記解析に基づきデバイススリープ期間を判定するタイマーと、を備えるトランシーバ。

〔１５〕 通信デバイスの中でスリープ期間を判定する方法を遂行するため１つ以上のプロセッサによって実行される１つ以上の命令からなる１つ以上のシーケンスを保持する、コンピュータ読取可能媒体であって、同命令は、前記１つ以上のプロセッサによって実行されるときに、前記１つ以上のプロセッサに、データ単位に関する２つ以上のデータフィールドの内少なくとも１つを解析することと、前記解析に基づきデバイススリープ期間を判定することと、の各ステップを遂行させる、コンピュータ読取可能媒体。

〔１６〕 さらに前記１つ以上のプロセッサに、後続データ単位にてデータが入手可能であるか否かを前記解析に基づき判定させる、前記１つ以上の命令を保持する、〔１５〕に記載のコンピュータ読取可能媒体。

〔１７〕 前記スリープ期間は連続するスリープ期間である、〔１５〕に記載のコンピュータ読取可能媒体。

〔１８〕 前記スリープ期間は覚醒期間によって分け隔てられる、〔１７〕に記載のコンピュータ読取可能媒体。

〔１９〕 前記通信は直交周波数分割多重化原理に基づく、〔１８〕に記載のコンピュータ読取可能媒体。

〔２０〕 前記解析はネットワークの物理層の中で行われる、〔１５〕に記載のコンピュータ読取可能媒体。